

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 11月 23日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204169		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・大町		
所在地	〒731-0124 広島県広島市安佐南区大町東三丁目1番18号 (電話) ① (082) 831-8885 ② (082) 870-5520		
自己評価作成日	令和3年8月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470204169-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年11月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様の思いや自分らしさを大切にし、利用者様が主人公になるよう利用者様本位のケアに努めています。コロナ禍の影響もあり外出による行事は中止にしていますが、感染予防を行い散歩やドライブを個別に行う事でホームに閉じこもる事が無い様に日々努力しています。家族様との面会には制限がありますが、希望者にはオンラインを活用した面会を行い利用者様と家族様の接点が希薄にならないように気をつけています。ご家族様の要望や希望にもできる限り柔軟な対応ができるように利用相談の段階から関係づくりを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

コロナ禍で外出や面会などの制限が多い中で、食に着目し利用者が楽しめるようにとカフェ行事を新設した。普段食べることができない少し豪華なケーキや和菓子を飲み物と一緒に提供し、利用者の楽しみの一つとなっている。また、食事は食堂の一角で家庭的な雰囲気の中で調理されており、手作りの温かい食事が提供されている。敬老の日などの行事がある際も、特別な食事を施設職員が手作りし、誕生日には、好みの物をリクエストし食べる事ができる。ホーム長は、2人とも法人の接遇研修を担当していることから、関わる知識の習得や利用者への接遇に常に意識を持ち職員や利用者と接している。また将来的に、職員は利用者に関わる時間を更に増やして、その人らしく生活できるケアに繋がりたいとの思いから、現行の介護記録に関して効率化を図れるよう日々話し合いながら取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	玄関ロビーに掲示し、毎月の個別カンファレンスで理念を意識した個別のケアについて話しあっている。	ホーム長を主体として、町内会や保育園との関わりの中で、地域密着型サービスの意義を職員に感じ取ってもらっている。助言や、指導を行う際は基本理念に立ち返り、利用者が得意なことを続け楽しめる環境作りに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し回覧版を活用しながら地域行事の連絡事項の確認を行っている。コロナ禍の影響もあり、今年は例年参加している地域行事(運動会や清掃活動)は中止の為、際立った活動は行えていないが、事業所の様子を町内会長へ報告し地域の方に伝達して頂いている。	日頃から交流がある保育園の園児達が、施設前面の駐車場で敬老の日に歌を歌ったり、ハロウィンには仮装した姿を披露したりと、直接触れない方法で交流を継続している。また、利用者が近隣に散歩に出た際には、地域住民の方と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の影響で面会や来所制限もあり相談件数がない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の影響で運営推進会議は書面での照会であるも、各関係者様には電話連絡を行い、随時相談を行っている。	事前に書面や電話で各関係者へ照会する際に、地域行事の中止連絡や、町内会の役員変更の報告があり、同時に施設の情報を提供している。コロナ禍における面会制限や方法に関して、その都度、法人の方針と事業所の対応を書面で伝え、円滑な感染予防策を講じる事に繋がった。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	相談事項に合わせ直接担当者を来訪するなどし、顔が見える関係づくりに注意している。	利用者の状態変化や、介護保険証の更新認定時など、区役所担当課へ足を運び、状況報告をこまめに行うことで、担当者顔が見える関係構築に取り組んでいる。4月からの制度改正に伴い、事前に担当課へ相談、確認し利用者家族へ十分な説明が行える様に協力を得て体制を整えることができた。	

自己評価	外部評価	項目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年に4回の身体拘束会議を含め、定期的なミーティングにおいて禁止行為等の把握に努めている。	身体拘束適正化委員会を設置し、委員を主体として、職員の理解度に合わせた具体例を記載した研修資料を基に、チェック項目を確認しながら、振り返りを行っている。また、グレーゾーンと思われる行為についても、職員間で最善の介助方法を検討するように努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な拘束会議の中で高齢者虐待についても話し合い確認している。会議前には必ず日々のケアの中でグレーなケアが行われていないかヒアリングを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個々の状況に合わせた相談を関係担当者で行い、家族様とも相談しながら一方的な支援にならない様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に関わらず、家族面談時には必ず、不安や疑問点を伺い、ホームで対応できる事、できない事等の説明を十分行い、理解して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に必ず、説明し納得を得ている。日々、面会時、電話又は運営推進会議にて、意見・要望を伺っている。伺った意見は、職員間で検討・共有し、見直すべき所は見直している。	家族が、窓越しの面会や、衣類を届けに来所した際に、意見を直接聞くようにしている。2月にアンケートを実施し、回答結果は感謝や、労いの言葉が多く、職員間で回覧を行った。家族から、幼少期の思い出の料理を作り持参したので、食べさせて欲しいとの要望があり、提供した実例がある。	

自己評価	外部評価	項目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや業務の合間など、意見・提案があれば、全スタッフで検討・修正し、業務に取り入れている。	毎月ミーティングを開催し意見を聴取しているが、意見が言いにくい職員には、個別に聞き取りを行っている。職員からの意見や提案は、日常的に行われ、1年間の利用者の様子をまとめたDVDを鑑賞するプレイヤーの購入等に反映され、業務の円滑化や利用者の楽しみに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個別面談の他、会議・日々の業務の合間にて、意見を聴く機会を設けるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍の影響もあり、外部研修を通じての取組みは行えていない。日々の困難事例をもとにカンファレンスを通じて介護感や介護職員としての責務について話を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍の影響で対面での交流は行っていない。オンラインを活用した研修会にて情報交換が行える様に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ホームに馴染んで頂けるように、初期入居の段階から関わり方を職員間で話し合い不安、ストレスが軽減される様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前面談や電話にて、お話しを伺い円滑な関係づくりが行えるように柔軟な対応を行っている。入居後も、同様の対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前段階で分かり得る情報を、職員で共有し、支援について話し合っている。体験入居で得られた情報を加え、再検討、実施している。必要時、再検討・実施・評価を繰り返している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	集団での行動時間を極力行わず、本人の要望、希望を尊重した時間を作り、一方的な関わりにならないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホーム側で出来る事、ご家族にお願いしたい事を伝え、ご家族と共に、ご本人を支援していく重要性を説明し、理解して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の影響で対面での面会制限はあるが、希望者にはオンラインを活用した面会が出来る環境を整え対応している。	コロナ禍の中、窓越しや予約制によるオンライン面会を実施している。家族による端末の操作が困難な際は、職員が操作を手伝っている。利用者の普段の様子が分かる写真入りのお便りを毎月送付し、また電話の取り次ぎや、年賀状のやり取り等、馴染みの関係継続に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	制限のある空間の中で、出来る限り相性に配慮しながら(行事等の座る場所等)、職員が間に入り、入居者同士の人間関係構築・維持に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	了承が得られる場合は、転居先への訪問や連絡を行う場合もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族からの意向を、定期的に電話にて伺っている。利用者様の状態を考慮しつつ、ホームで出来る事を職員間で検討し、共有している。	利用者の性格に合わせ、場所や状況を選択し、環境を整備することで、意向を表出しやすくし、引き出す工夫をしている。困難な場合は、家族に若いころの好みを聞いたり、選択肢を簡単な2つに絞り利用者の自己決定を促している。特に困難な場合は、利用者の表情等を基に検討するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時常に、本人・家族・前施設から情報を得て確認している。また、入居後も何気ない会話から得られる情報を大切にし、過去の背景把握を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人ひとりの生活リズム、日内変動における能力を理解し、申し送りやミーティングで話し合いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者本人の希望、家族の要望、スタッフの日々の気付きを反映し、介護計画を作成している。	計画の見直しを行う際は、全職員に利用者の普段の状況を聞き取り反映している。体調の管理や、不安を軽減する為の職員の対応等を明確化することで、利用者がやすらぎ、得意な事や好きなことが続けられ、喜びを感じながら過ごせるように支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報共有の為の個別記録は無駄を省き工夫、改善を随時行っている。個別カンファレンスで個々の課題を話し合い検討をおこなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人・家族の状況変化時、常に職員間で検討している。必要時、他機関への相談を含め、その時・必要な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	必要時、町内会・地域包括支援センターに連絡・相談し、支援を求め、連携・支援強化に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医やその他専門医には必要に応じて随時受診している。その際、家族の同行も可能であれば同行して頂いている。	かかりつけ医を利用開始と同時に変更する場合は、利用者、家族に説明し同意を得ている。専門医やこれまでに通っていたかかりつけ医の受診も可能であるが、家族に送迎や付き添いの協力を依頼している。施設で必要と判断した場合は、職員が通院同行し情報提供を行っている。	

自己評価	外部評価	項目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護についての情報・気づきがあれば、常に連絡・相談し、助言・指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者本人への支援方法や家族情報の提供を行っている。入院中の家族の不安を解消出来る様に定期的に連絡を行い相談できる環境づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者様の心身状況に合わせ随時家族面談や電話連絡を行っている。合わせて入居時にもホームで行える医療行為について了承・同意を得られるように説明している。	契約時に、医療的な対応、看取り等に関する指針を説明し、書面で同意を得ている。状態の変化に応じて適宜話し合いの場を設け、利用者、家族にとって終末期のあり方について最良の選択となるように、関係者と検討するように努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルを基に指導を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練以外にも、定期的な消防訓練を随時行い、災害時等の避難経路の確認を行っている。町内会と連携し火災時、震災時の避難行動についての協力体制を整えている。	年に2回実施している避難訓練は、夜間に火災が発生したと想定して行っている。町内会長から地域住民への働きかけがあり、災害時の利用者見守りに協力を得られる運びとなった。また、同一法人が運営する複数のグループホームと連携し協力を得られる体制を構築している。	災害時の備蓄があり、日ごろから地域住民と消防署とも連携を行っている。年2回の消防訓練は、職員主体で実施されており利用者の参加がほぼない状況である。利用者が少数でも訓練に参加していく事で、非常時に活かされる訓練が実施できるような体制づくりを期待する。

自己評価	外部評価	項目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者個々の性格に合わせてつつ、状況に応じた関わり、声掛けを行うように話し合っている。	職員間で申し送りの際に、個人名を出さないように気を付けている。座っている利用者に話しかける時は、後ろから声をかけるのではなく、目線の高さを利用者に合わせて顔を見て話すように心がけている。排泄誘導の声掛けは、トイレと言わずに他の言葉を選び、席を立ててもらうように工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	目線・声かけの仕方・場に気を付け、本人の思いを確認している。出来る限り、自己選択、自己決定できる雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者本人のペースで過ごして頂ける様に集団での時間を極力少なくし、出来る限りその時の気持ちを尊重し柔軟な対応で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類選びや整容、理美容利用時は本人の希望、要望を確認し支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その日の体調や希望を考慮し、職員と共にしている。行事に合わせた料理の提供や本人の希望に合わせた食事内容の変更を行っている。常に食事は一緒に摂っている。	各ユニット毎に、献立を考え、買い物と炊飯、調理を行っている。その日の食べたいものを聞き、利用者に味見をしてもらい、季節の旬の食材を取り入れ、彩り良く盛り付けられた温かい食事を提供している。バイキングが定期開催され、好きな物を選び食べることができ、楽しみの一つとなっている。	

自己評価	外部評価	項 目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	体調に応じた量・内容(刻み、粥)を用意し、必要時には主治医の意見も含め、一人ひとりに応じた支援に努めている。肉・魚・野菜をバランス良く提供。水分量が少ないと思われる方には、定時で水分補給の時間を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	必要な方には、歯科往診を依頼しており、歯科衛生士に相談・助言を得て対応している。声かけ・介助を随時行い、状態により歯間ブラシ・スポンジブラシ・うがい薬を使っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定時声掛け、随時誘導を行いトイレでの排泄が行えるように心掛けている。	排泄のチェック表を活用し、一人ひとりのその日の状態に合わせて、声掛けや促しを実施している。日中は利用者全員がトイレで排泄ができる体制が整備されている。座位を安定させるために足台を設置したり、鍵をかけないで利用する方のために、使用中のプレートを設置する等の工夫を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄確認表を活用し排便の管理、主治医相談し排便のコントロールしている。合わせて、飲食物の工夫や運動を取り入れ便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴時間帯の制限はあるが、希望時には入浴が出来るように流動的に支援している。入浴の拒否が続く場合は時間を替え、人を替えて声掛けを継続し、無理なケアに繋がらないように話し合っている。	利用者の安全を確保した上で、職員が少し離れて見守り、一人の時間も持てるよう配慮している。職員と1対1で話す良い機会でもあり、ゆとりを持って介助を行っている。入浴が苦手な方へは、看護師がマッサージをして関わりを多く持ってから誘うよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	体調や習慣を考慮し就寝時間や 起床時間は個別での対応を心掛 けている。夜間の不眠や混乱時 は時間を掛けて話を傾聴しゆっ くり関わるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	個別に処方ファイルを作成。必 要時、薬剤師に相談・助言を得 ている。処方の変更があった場 合は申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	本人の趣味、趣向品を大切に し、昔ながらの活動を取り入れ ながら支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ うに支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	コロナ禍の影響で外出制限はあ るが、対面を行わない散歩や ドライブを行っている。	少人数で施設周辺の散歩を行 ったり、職員が感染リスクの少 ない目的地を選定しドライブを するなど、工夫しながら外出を 支援している。また、ウッド デッキで朝日を浴びながら体操 をしたり、プランターで育てて いる野菜の水やりなどで、外 気に触れる時間も設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるように 支援している。	本人からの希望があり家族の 同意が得られた方は少額程度 預かり、買い物時に使用でき るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(大町①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話使用の要望があれば、ホームの電話を使っている。また、携帯電話の持ち込みも許可している。毎月のひなたぼっこ通信にも、可能な方には、自筆のコメントを書いて頂いている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者の状態観察を通し、必要時空間の配置見直し（大きさ・色・形・方向）を検討・実施している。季節毎の飾り付けと一緒に作り・飾っている。</p>	<p>食堂のテーブルは法人で手作りしたものを使用している。座席の位置は利用者同士の相性などを考慮し検討している。職員と利用者が季節毎に折り紙や切り紙で飾り付けを行っている。季節の生花を職員が購入し、利用者が活ける事もある。調理は匂いを嗅ぎながら家庭に近い環境となるよう工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室・デイルーム・廊下に椅子・ソファを置き、自由に過ごしていただいている。必要時、配置の見直しを行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室内に納まる物であれば、使い慣れた家具等を、自由に持ってきていただいている。出来る限り、本人・家族の意向に添っている。</p>	<p>利用開始時に使い慣れた物を持参してもらおうようお願いしている。愛着のある犬のぬいぐるみを抱いて眠る方や、ゲーム機を持参し、一人で過ごす時間が大きく変わらないよう配慮している。居室の清掃は職員が毎朝行い、個々の能力を活かしながら、できる方は自身で行えるように支援している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全且つ混乱しないように、申し送りやミーティング内で話し合い、環境整備を行う事で自立に向けた支援が行えるように努めている。</p>		

V アウトカム項目(大町①) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎月1回職員が集まってケアカンファレンスを行い、ケアの統一を図っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会へ加入しているが、コロナ禍のため町内行事が中止され今年は交流がほとんど出来なかつた。町内の有志の方には非常時に助けて頂けるよう継続してお願いをしているが、消防訓練への参加は今年も無し。子供会は子供の減少により今年より継続不可となり交流はなし。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方からの相談を受けた場合、その相談にのったり、必要に応じてアドバイスをを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナにより書面での照会形式となり、対面での会議ほど報告や相談は出ていない。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	必要時には連絡を取っている。		

自己評価	外部評価	項目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングや申し送り時等で、ひとりひとりのその時々の状態を把握し、拘束をしないケアを行っている。また事業所内で内部研修も行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修にて機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修への参加が出来ていないため、内部研修で取り組んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項の説明、ホームで生活する上でのリスク、医療連携の体制などの説明を充分に行い契約を行っている。改定の際にも説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍以降は電話での対応が主になっている。寄せられた要望はミーティングや申し送り等で職員が共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング時にも意見を聞くが、日々の中でも個別に聞くよう心がけている。また言いやすい雰囲気作りに心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の意見を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍により外部への研修機会は減っているが、内部研修や状況に応じて都度時間を取れるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍により機会が減少しているが、電話等で交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談があった際は必ず本人面談を行ない、心身の状態や思いを把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	現在の状況をしっかり伺い、ご家族の求める要望や思いを正しく理解するようにし、よい関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、ご家族の求める必要なサービスをできる限り提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩であるという前提のもと、利用者に教えていただくこともあったり、大家族のようにお互いが出来る事を協力し合える場面作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の様子をおたよりでお伝えし、必要時には電話で状況を報告している。またご家族の思いを聞き、本人を支える関係作りを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍により継続が難しくなっている。電話や手紙等の支援は現在行っていない。		

自己評価	外部評価	項 目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活の中で職員が間に入り、良好な関係作りに努め、関係が築けた後は職員が必要以上に入り過ぎないように留意している。またミーティングや申し送り等で情報を共有しケアに繋げている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族の了解をいただいた方については、退居されたあとも様子を伺うこともある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に確認し、入居後は日々の生活の中で把握するように努めている。困難な場合も本人本位で考え、ご家族から情報を得た時は、ミーティング等で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にも確認し、入居後はその方への理解を深めるために日常の中で、また面会時等にご家族から話を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活のリズムを把握し、その方のできることでできないことを理解するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日々の中で、本人の希望や思い、状態を確認し必要に応じて見直しを行ない、状態に即したプランとなるようにしている。また面会時等を通じご家族の意向・思いを聞き、ミーティング等で検討を行い、プランに反映させ作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の記録ファイルに日々の状況を記録し、ミーティングでも話し合い職員間で共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人、ご家族の状況に応じて、可能な限り柔軟な対応をしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事へ積極的に参加していたが、コロナ禍以降は支援が難しい状態になっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>事業所の協力医のほか、訪問歯科等の利用をしている。また他医療機関(専門医)へは、ご家族に同行をお願いするケースもある。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	異常が見られる場合には看護職員に相談し、医療面について対応の仕方の指示を受けたり、助言をもらうようにしている。また可能な限り受診には看護職員が同行している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーによる情報提供をし、必要時には連絡を取り合っている。入院中には面会または電話等により、情報を得、早期にホームへ戻れるよう医療機関へアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、ご家族の意向、事業所、協力医で話し合い支援している。状況や日々の中で本人・ご家族の意向、思いが変わることを十分に考慮し、柔軟な対応が取れるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に救命救急講習の受講を予定している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所全体で年2回、ユニットとしては随時、避難訓練をしているが、コロナ禍のため地域の方の参加はなかった。協力体制は昨年までと同様をお願いを継続している。		

自己評価	外部評価	項目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	さりげない声掛けをし、本人のプライドを傷つけないケアを提供するよう心がけ、ミーティングや内部研修時にその都度、職員へ周知している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ひとりひとりの言葉、表情を見極め、職員の押し付けにならないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の状況をみながら本人の思うように過ごしてもらっているが、職員からの働きかけも多い。自己決定の困難な方には希望にそった支援が難しい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝夕の更衣時には、衣類や寝巻きを選んでいただくようにしている。困難な方の場合、職員が決めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	その時々メニューを利用者と決めるよう努めている。調理や盛り付けなど出来ることを一緒にしている。また月に一度のランチバイキングでは一緒にメニュー決め、調理をし、好きなものをご自分で選んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>刻む、粥など個別に提供している。また習慣による嗜好品も個別に提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>促しにより口腔ケアを実施している。状態に合わせて介助を行っている。また必要に応じて訪問歯科を利用している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄表により排泄パターンの把握に努め、声かけ、誘導を行っている。必要なパッド類も状態に応じ過度なものにならないよう、その都度検討している。体調不良時以外、日中はトイレでの排泄ができるよう取り組み、夜間も状態に合わせて、トイレ誘導、パッド交換している。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分摂取量が増えるよう努めている。嗜好品での提供・寒天等使用したおやつを提供を随時行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴したい時間、順番を希望に添えるよう考慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	夜間に睡眠ができるよう、でき るだけ日中の活動を増やすよう 努めている。希望により日中も 居室にて休めるよう配慮してい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	処方綴りを作成し、職員全員が 把握できるようにしている。個 別に粉砕等を薬局へお願いし、 確実な服薬ができるようにして いる。処方に変更があった場 合等は、服薬後の変化を把握 し、その都度、主治医へ相談し 、結果も職員へ周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	食事作り、縫い物など、得意分 野で力を発揮してもらるように している。気分転換にドライブや 散歩等に出掛けたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。	コロナ禍以降は買い物、外出は 控えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	現在は現金を持っておられる方 がいないが、希望時には立替で 嗜好品(菓子など)や日用品を 購入してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目(大町②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎月のお便りに直筆でメッセージを書いて頂いたりしている。電話・手紙のやり取りは現在支援なし。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム内でも季節を感じられるようユニット内の飾り付けや、季節の生花など、利用者と一緒に考え行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファでゆっくりできるようにしている。独りになれる場合は居室のみとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、入居後、なるべく使い慣れた家具を持参していただくようにしている。家具の配置なども本人、ご家族で決めていただくようにしている。コタツ等も持参していただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	どうすれば自立できるのかを考え、ミーティング等で検討し、できるだけ自力でできるための環境整備を行なうようにしている。		

V アウトカム項目(大町②) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・大町

作成日 令和3年12月14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	職員主体の消防訓練で利用者の訓練参加が出来ていない。	消防訓練時は可能な限り、利用者の参加を計画し実施する。	計画段階で参加可能な利用者を検討し実施する。	12か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。